

# 一般選抜入学試験(過年度実施)の出題方針と学習のポイント

・過年度の一般選抜入学試験問題を立命館大学の入試情報サイトで公開しています。  
立命館大学入試情報サイト <https://ritsnet.ritsumeijp/admission/archive/index.html>



※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。  
※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

## 英語 全方式共通

(出題内容・形式・配点)

内容	形式	配点	試験時間
I 長文総合問題	マーク	29	80分
II 長文総合問題	マーク	31	
III 会話文	マーク	24	
IV 文法・慣用句	マーク	16	
V 語句選択英文完成	マーク	20	
合計		120	

【出題の基本方針】

立命館大学の諸学部において教育を受けるに相応しい、基本的な英語力を備えた受験者を選抜するために、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正に測定できる内容で出題することを基本方針とした。出題形式に関して、前年度から変更はしていない。

【各設問の方針と内容】(全日程共通)

**I** 750～850語程度の英文をもとにした、大意把握と内容理解の力を試す問題である。[1]は、英文の意味・内容に関する問が英語で提示され、[2]は、与えられた5つの文が英文の内容と一致するか否か、あるいは英文の内容からだけでは判断できないかを問う、より正確な内容理解を試す問題である。[3]は、英文を総合的に理解しているか(主旨の理解ができていないか)を問う。

**II** 750～850語程度の英文の内容理解を試す問題で、細部の正確な理解が要求される。[1]は文中の空所に当てはまる語(句)を選ぶ問題である。空所の直前・直後だけでなく、英文全体の話の流れを正確に把握する必要がある。[2]は英文の中の代名詞などの語(句)が、何を指しているか、何を意味しているかを、選ぶ問題である。何かを指示する語(句)が具体的に何を意味しているかを意識的に考えながら読むことによって正確な理解ができていないかを試す。

**III** 二人の対話文をもとにした問題である。対話中の空所を埋めるのにもっとも適当な表現を選択肢から選ぶ形式である。さまざまな場面で、話の流れを正確に掴みながら話し手の意向や気持ちなどを理解することができるか、また、適切な表現で応答し必要な情報を伝えることができるかを試す。人との関係を円滑にする(挨拶や呼び掛けなど)、相手の行動を促すなど、いろいろな言語の働きをする英語表現に親しんでおくことが必要である。

**IV** 文法事項に関する問題である。空所を埋めることによって英文を完成させる問題である。基本的なものを中心に、動詞、副詞、形容詞、接続詞、前置詞など様々な品詞に関して、適切な英語で表現する力を試す。

**V** 語彙に関する問題である。[1]は英文の空所を埋めるのにもっとも適当な単語を選ぶ形式で、文脈から語を導き出す問題であり、[2]は、文中の下線部と同じ意味の語を選択する同義語の問題である。教科書に出てくるような基本的な語彙をはじめ、自立した英語使用者に必要な語彙を幅広く身につけておくことが期待される。単に単語の意味を知っているのではなく、その単語が英文の中でどのように使われるか、連語関係などにも注意を払いながら学習しているかが試される。さらに、その単語を他の単語で置き換えることができるかどうかを試されている。一つの単語に対する一段と深い理解が必要となる。

【学習のポイント】

- 文章全体の構成に注意を払いながら、論理の流れを理解しよう。文章の大意を取ることができたら、今度は一つ一つのパラグラフが何を言っているのかをキーワードなどを使って短い語句で示し、掴みながら、次のパラグラフに進んで行こう。そうすれば、細かい部分も正確に把握できるし、論理的な流れも正確に掴めるはずである。英文を効率よく、正確に読むためには、日頃から精読と多読をバランスよく行うことが大切である。文章を要約する練習も効果的だろう。
- 会話文や慣用的な表現には、普段からインターネット上にある会話ビデオや映画などを活用して、楽しみながら親しもう。面白い表現などをノートに取って見直すのも役に立つだろう。1週間や1ヶ月毎に最初から見直し、実際に口に出して言うことも大切である。同じ状況に遭遇すれば、自然に言葉が出てくるだろう。
- 語彙は言語習得の基礎中の基礎である。CDやDVDのついている単語集やインターネット上にある単語学習プログラムなどから気に入ったものを選び、耳で聞き、同時に口ずさみ、目で確認し、意味を考えながら書くなど、すべての感覚を使って覚えると効果的である。そうすれば、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの力を総合的に伸ばすことにもつながる。文脈の中で覚えることも大切である。文章や会話の中で単語がどのように使われているのかを意識しながら覚えていこう。

## 英語 国際関係に関する英文読解(IR方式)

(出題内容・形式・配点)

内容	形式	配点	試験時間
I 難民の流入についての考察	記述(日本語)	50	80分
II グローカライゼーション	記述(英語)	50	
合計		100	

【出題の基本方針】

国際関係、国際社会における今日的な主要問題、出来事に関し、英文で素早く、概要を的確に理解できる能力の測定を試みた。題材は、今日的な国際関係の主要問題を扱った。

【学習のポイント】

- 国際関係学においては、国際政治、経済、社会、文化などの事象、問題を扱うため、主要な政治経済問題などを報道、解説する新聞、雑誌などを、日頃からオンラインで、英語はもちろん、日本語でも幅広く読むことが必要である。
- 速読により概要を素早く把握できるようにするとともに、書かれていることを鵜呑みにするのではなく、客観的なデータに基づいて批判的、実証的に分析することを心がける、自己の意見を明確、的確に表現できる能力を持つことができるように日頃から努める必要がある。

※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。
※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

## 国語 全学統一方式・学部個別配点方式

〈出題内容・形式・配点〉	〈問題選択について〉		
内容	形式	配点	試験時間
Ⅰ 現代文	マークと記述を併用	45	80分
Ⅱ 現代文 ※1	マークと記述を併用	15	
Ⅲ 古文	マークと記述を併用	40	
Ⅳ 漢文 ※1	マークと記述を併用	15	
合計		100	

【出題の基本方針】

高等学校の学習を基礎とし、難解すぎる文章を避けつつも、大学入学後の学びに必要なレベルの文章読解力の有無が判断できるような問題文を選び、出題している。現代文・古文・漢文とも、文章全体の的確な理解、その前提となる基礎的な語彙力や文法の理解を問うものを出題する。現代文では、高等学校までの学習による基本的な知識を前提として、語彙力や論理の流れを捉えた読解力

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>まず、文章全体の大意を把握することが求められる。そのうえで、文章の中で各段落がどのように構成されていて、個々の文章や語句がどのように位置づけられているかを理解できるよう心がけること。</li> <li>現代文では、特に評論文で使われる概念や比喩的な表現の理解が必要となる。普段から評論文を読み、頻出概念や比喩的な言い回しに慣れておくこと。とくに、ある程度の長さの評論文を短時間で理解する訓練が重要になる。</li> <li>文学的な文章では、人物の心情の読み取りが必要になってくることがあるが、その根拠となる表現を文章中から見つけるよう心がけてほしい。</li> <li>問題文では筆者独自の表現や考え方が展開されることもある。自身の知識や先入見にとらわれず、文章中のキーワードを把握し、筆者が言わんとしていることを的確に把握することを心がけてほしい。</li> <li>繰り返しや、言い換えなどで強調されている部分・語彙は作者が主張したい内容であることが多い。文章の主旨を理解する際、注目しておきたい。</li> <li>段落や文の関係性については、接続詞の使い方や意味を的確に理解し、文脈の流れや文章の構造を捉えることができるようにすること。</li> <li>語彙・句法・表現技法・四字熟語等については、普段から評論文に親しみ、自分にとっての初見の語句があれば、辞書を活用し、調べる習慣を身につけたい。</li> <li>漢字は、文脈の流れの中で理解できるようにしておくこと。同音異義語にも注意しておくこと。また、漢字の書き取りは、書き順を理解したうえで、丁寧に正確に書く練習をしてほしい。</li> <li>文学史については、単なる作者や作品名の暗記ではなく、文学史の流れの中に位置づけ、また描かれたテーマとともに記憶しておくこと。</li> <li>古文は、基礎的な語彙や基本的な文法の知識をしっかり身につけ、それを踏まえて正確に読み取ることができるように学習しておくこと。</li> <li>現代語訳を課す問題については、基本的な語彙やその組み合わせによる意味を問う問題である。正確な現代語訳ができるよう訓練をしておくこと。</li> <li>古文の文章の流れを理解するうえで、動作の主体が誰かを把握することは不可欠である。日頃から、敬語表現にも留意し動作主体を必ず補いながら読むなどの丁寧な読解を心がけておくこと。</li> <li>古文には和歌を含む作品もあるため、和歌の技法・形式についても理解しておくこと。文学史的な知識も学習すること。</li> <li>漢文は、基本的な知識を問う問題である。高校の教科書で学習する句形や語の意味をきちんと理解して、文章読解の基本的な力をつけておくこと。</li></ul>
---

## 国語 共通テスト併用方式・後期分割方式

〈出題内容・形式・配点〉	〈出題の基本方針〉		
内容	形式	配点	試験時間
Ⅰ 現代文	マーク	50	80分
Ⅱ 現代文	マーク	50	
合計		100	

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>論理的な文章が読解できるためには、文脈の中で語句の意味を理解し覚えること、論理的に思考するためのツールとしての概念語（抽象語）が使いこなせること、文章の構造を大局的・俯瞰的に把握でき、筆者の思考や論理の道筋を正確にたどれることが必要である。</li> <li>様々な話題に興味・関心を持ち、教養書や新聞の社説・文化欄なども意欲的に読み、幅広い読書を通して、精密で批判的な思考を可能にする豊かな概念と語彙を養ってほしい。また、偏りのない判断や批判的思考が可能となるよう、ことばを自覚的に運用できる力を身につけることも心がけてほしい。</li></ul>
--

## 選択科目（公民） 政治・経済

〈出題内容・形式・配点〉	〈出題の基本方針〉		
内容	形式	配点	試験時間
Ⅰ 政治改革と選挙制度	記述	35	80分
Ⅱ グローバルな国家間の格差(南北問題、グローバルサウス)	記述	35	
Ⅲ 働き方についての問題	記述	30	
合計		100	

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>基本的な出題範囲は、教科書、資料集、ならびに、用語集である。教科書は複数の出版社から刊行されており、A社の教科書にある記述が、B社の教科書には無い場合もある。また、ある記述が1社の教科書のみの場合もある。したがって、資料集や用語集などで補充することが必要である。</li> <li>また、各教材中の「資料」（日本国憲法を含む）「図表」「グラフ」「年表」などについても、数値など細部まで目を配ることが必要である。</li> <li>さらに、教科書に記述のない新しい時事問題についても、日頃からニュース等を通じて、正確な知識にもとづく理解を深めることが望まれる。</li></ul>
--

※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。
※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

## 選択科目（地理歴史） 日本史

〈出題内容・形式・配点〉	〈出題の基本方針〉		
内容	形式	配点	試験時間
Ⅰ ヤマト王権の支配機構	記述	30	80分
Ⅱ 中世の女性史	記述	30	
Ⅲ 近現代日本の文化史	記述	40	
合計		100	

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>政治・経済・社会・文化史などの諸分野を幅広く学習することが重要である。やはり近現代文化史は受験生にとって苦手な傾向が見受けられるので、苦手意識を持たず、意欲的に学習してほしい。</li> <li>教科書を中心に諸事件・事象の流れと関係を論理的・文脈的に把握することが重要である。それと同時に教科書や史料集に所載されている図版・表・写真などにも注意を向けてほしい。</li> <li>史料集を座右に置き、教科書と併用することは極めて効果が高い。その史料の趣意を記した重要箇所などは、用語を含めて内容を正確に理解しておきたい。また古地図などにも親しみ、地理的・立体的な知識の習得を心がけてほしい。</li> <li>一方向からの問いではなく、多面的からの問い方に対応できないと正答できない問題を含んでいるため、そうした出題形式にも慣れておく必要がある。</li> <li>漢字のミスや部首などの不正確な記述、判読しにくい漢字が依然として目立つ。それらに対しては厳正に対処し、誤答として扱うので注意が必要である。事象名・人名・地名などの歴史用語は正確で楷書体の読みやすい漢字を書くことが必須と心得てほしい。</li> <li>近年の高校教育の趨勢に準拠し、比較的新しい時代の出題の割合を増やしている。今後はそれらに関する系統だった正確な知識の習得が必要となる。</li> <li>歴史観・歴史認識を問う問題なども今後一定の割合で出題される可能性がある。その場合はその歴史観・歴史認識が生み出された時代の知識とその歴史認識の題材となっている時代（古代～近現代）双方についての知識、さらにはそれにまつわる海外（東洋・西洋）の知識も必要な場合があるので、それらに対応した幅広い知識の習得に心がける必要がある。</li></ul>
---

## 選択科目（地理歴史） 世界史

〈出題内容・形式・配点〉	〈出題の基本方針〉		
内容	形式	配点	試験時間
Ⅰ 前近代中国における「漢」王朝	記述	20	80分
Ⅱ 中国における儒学の展開	記述	20	
Ⅲ 13世紀の西ヨーロッパの歴史	記述	30	
Ⅳ マー＝ワラー＝アンナフルを中心とした歴史	記述	30	
合計		100	

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>ある歴史上の出来事について、それが発生した直接的な原因だけでなく、それが発生した歴史的背景、さらにその出来事が次の歴史展開にどのような影響を与えたのかについてもよく理解しておく必要がある。歴史を流れとして理解するためには教科書を何度も読み返した上で、教科書より少し詳しい参考書を読むのがよい。</li> <li>世界史の学習に際して、ある時代・地域の歴史展開を地理的にイメージできるようにしておくことも重要である。教科書などを読みながら図版でその地理的展開を確認するとイメージを形成しやすい。</li> <li>世界史学習そのもののポイントではないが、受験本番で問題を解く際には問題文をしっかりと読み込むこと。世界史の出題では、問題文全体の内容理解を前提として設問（空欄）を考えさせるという出題を心がけているので、空欄の前後だけでは正答にたどり着けないことも多い。文章読解力は大学入学後に最も必要となる学力の一つでもあるので、日頃から内容をしっかりと考えながら文章を読む練習をしておくように。</li></ul>
---

## 選択科目（地理歴史） 地理

〈出題内容・形式・配点〉	〈出題の基本方針〉		
内容	形式	配点	試験時間
Ⅰ 系統地理	記述	34	80分
Ⅱ 地誌	記述	34	
Ⅲ 地誌	記述	32	
合計		100	

教科書・地図帳・副教材・統計資料に掲載されている諸事実を、地図ないし現実の地理に即して体系的に理解しようと努める受験生が力を発揮することのできる出題である。単に地理用語を記憶するのではなく、地表上の諸現象を知識として身につけたうえで、それらを相互に関係づけて理解しているかどうかを問うている。教科書を基本とすることは当然であるが、現代世界の状況にも関心を持ち、それらを地理的な事象と関連付けることのできる応用力を有しているかも積極的に問うた。

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>教科書全体を熟読し、内容を適切に理解するとともに、地名・語句を正しく表記できるようにしよう。地域や地名については、地図帳を用いて位置を正しく把握すること。また、統計データやグラフ・表などの資料が掲載されている場合には、それらを読み取ることのできる理解力を養う必要がある。単に用語を暗記するのではなく、用語を説明できるとともに、地理的な現象の背景にある要因も思考できる力を身につけよう。</li> <li>地図帳のみならず、地形図や「地理院地図」などのウェブ上の地図にも日常的に親しんでおくことよい。地形図ないし「地理院地図」を用いた身近な地域の観察を通じて、地図を読み解く力は高まる。</li> <li>多様なメディアで報じられる日々のニュースには、系統地理や地誌と関わる事項が多分に含まれている。新聞だけをとっても、世界の特定地域の地図が毎日のように掲載されている。現代社会の状況にも関心をむけて、地理的な理解力を育む努力も欠くことはできない。</li></ul>
--

※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。  
※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

## 選択科目(数学) 全学統一方式(文系)、学部個別配点方式(文系型)

〈出題内容・形式・配点〉				
内容	形式	配点	試験時間	
I 場合の数、方程式の解、ベクトル	記述	40	80分	
II 数列	記述	30		
III 確率	記述	30		
合計		100		

【出題の基本方針】

高等学校で学ぶ数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列のみ)、数学C(ベクトルのみ)の範囲における基礎的な内容の習得や知識・理解の程度を判定し、大学の文系学部で学ぶために必要な論理的思考力や直観力、表現力等を評価することを目的としている。

問題は、受験生が学ぶ教科書の例題および応用問題(章末問題)を参考している。特に大問Ⅱでは読解力や社会の現象を数学的に考える力、大問Ⅲでは、思考過程を論理的に表現する力を問う問題としている。

【学習のポイント】

- 教科書の例題や応用問題(章末問題)を丁寧に解くことが重要である。
- 解答数の多さに惑わされず、順序だてて解答してほしい。基礎的な問いから始まっていることから、途中であきらめないで解答してほしい。
- 大問Ⅰは、基礎的な問題として、教科書の例題や章末問題を丁寧に取り組むことで十分解答できる問題である。
- 大問Ⅱは長文問題として題意を正確に把握し、社会の現象を高等学校で学んだ数学の内容と関連づけて理解すれば難しい問題ではない。特に数学的に考える力(思考力)、判断力を評価している。
- 大問Ⅲは、教科書の応用問題(章末問題)や問題集の中難度の問題に取り組むことによって十分解答できる。基礎的な内容から応用へと思考過程を順序だてて記述(論理的に表現)する学びをしてほしい。

## 数 学 理系型3教科方式、薬学方式

〈出題内容・形式・配点〉				
内容	形式	配点	試験時間	
I 三角関数、指数・対数、級数、データの分析	記述	25	100分	
II 微分、積分	記述	25		
III 空間図形(ベクトル)	記述	25		
IV 確率、数列	記述	25		
合計		100		

【学習のポイント】

- 方程式、図形、三角関数、指数・対数、微分・積分、級数、数列、確率、データの分析などに重点を置き、高校レベルの基礎学力を測ることを基本方針としている。
- 教科書を何度も繰り返し読んで定義と基本的な考え方を理解し、定理を証明したり教科書の問題を確実に解いたりできるようにすることが大切である。グラフや図などを描きながら学ぶことを勧める。計算力を高め、教科書に書いてある各項目の相互の関連を考えながら応用問題に取り組むことが望ましい。

## 数 学 全学統一方式(理系)、学部個別配点方式(理科1・2科目型)、共通テスト併用方式、後期分割方式

〈出題内容・形式・配点〉				
内容	形式	配点	試験時間	
I 整数、式と証明	記述	25	100分	
II 平面ベクトル、極限	記述	25		
III 微分、積分	記述	25		
IV 数列、確率	記述	25		
合計		100		

【学習のポイント】

- 各単元の基本的概念を理解することが第一歩である。概念の定義や性質を憶えている必要があるが、ただの暗唱では意味がなく、必要な時に使える形で覚えていなければならない。そのために、各単元の練習問題が有効である。ただ機械的に正答を求めるのではなく、各概念の定義や性質を意識しながら解くことが重要となる。
- 次は各単元の概念を使いこなすことが目標となる。各概念についての経験の幅の広さが重要である。一つの問題に対しても図を使って考えたり、具体的な値を代入して考えたりするなど、イメージや実感を持って問題を解くことによって、より多くの経験を積むことができる。また、すぐには解けないレベルの問題について、試行錯誤をしながら焦らずにじっくり考えてみることも有効である。複合問題と呼ばれるような複数の単元の概念に関連した問題を解けることは一つの基準になる。
- 問題をよく読み、内容を理解することは前提である。数学の問題文は冗長性が無いか極めて低いという傾向にあり、拾い読みは通用しない。普段から問題の意味をきちんと理解する習慣を身につけてほしい。
- 字は読めるように書こう。こだわり過ぎる必要はないが自分や伝えたい相手が読み間違えるようではもったいない。これも普段から習慣化しておこう。

## 理 科 物理

〈出題内容・形式・配点〉				
内容	形式	配点	試験時間	
I 力学	マークと記述を併用	33	80分	
II 電磁気	マークと記述を併用	34		
III 熱	マークと記述を併用	33		
合計		100		

【出題の基本方針】

高校物理の教科書「物理基礎」「物理」および学習指導要領に準拠し、力学、電磁気学に加えて、波動と光、熱、原子の各分野からバランスよく出題することを基本方針とした。

物理的な思考力を必要とする設問を基本としつつ、用語や知識や公式を問う設問、式変形を行う設問、数値的な計算を行う設問、グラフを用いる設問などを配し、受験生の力を様々な角度から推し測れるよう心がけた。また、問題を解くことが物理の能力向上に役立ち、物理への理解や興味が深まるとともに、教育的にも有意義なものとなるよう心がけた。

【学習のポイント】

- 物理に限らず何事もそうですが、まず基礎知識をしっかり身につけてください。物理の学習においては、物理現象が起きるしくみをよく考えて、本質を理解することを心がけてください。使えない公式を暗記していても意味はありませんが、使えるならば公式は役に立つことでしょ。使える公式にするためには、それが表している物理法則の本質を理解していなければなりません。使える公式にするためには、問題演習が役に立ちますが、解ければいいというのではなく、どういう物理的な考え方をすればよいのかということを意識しながら、1つ1つ進めてください。
- 立命館大学の物理の問題は、問題文を読み進めながら問題を解いていくようになっています。文章を正しく論理的に読み解く力が必要になります。問題文の誘導に従って順序立てて考えるだけで正答できる問題もあります。普段の学習や問題演習でも、教科書や問題文のポイントを意識し、文章を正しく読み解くことを意識しましょう。問題文中の解答の指定(文字定数の限定など)に従っていない「もったいない」解答が見られます。その点からも問題文を注意深く読むことは重要になります。
- 計算を伴う問題も多く出題されます。間違いを防ぐためには、「問われている量と計算結果の「単位の次元」が同じであるかをチェックする」「計算過程を確認して計算ミスを発見する」という習慣を身につけることも重要です。数式は、「意味がよくわかる」ように、約分などを行ってよく整理することも間違いを防ぐのに役に立ちます。
- 答案はていねいな字で書くことを心がけてください。

※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。  
※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

## 理 科 化学

〈出題内容・形式・配点〉				
内容	形式	配点	試験時間	
I 物質の状態・変化・平衡	マークと記述を併用	25	80分	
II 無機化学	マークと記述を併用	25		
III 有機化学	マークと記述を併用	25		
IV 高分子化学	マークと記述を併用	25		
合計		100		

【出題の基本方針】

「化学基礎」ならびに「化学」の教科書の内容を十分に学習しておけば解答できる基礎学力を測ることを基本方針とした。教科書に記述されている内容について、基礎的な知識を問うとともに、化学的な思考力や応用力の習熟度を試す問題を出題した。「発展」や「参考」にあたる問題に関しては、丁寧な説明を心掛け、問題文の誘導に従えば、化学の基礎知識を利用して解答できるように工夫した。

【学習のポイント】

- 高校で使用した「化学基礎」ならびに「化学」の教科書の内容について、化学的な思考力を用いて理解すると共に、教科書の例題、問、章末問題などに取り組み、学習した内容を活用できる力を身につけること。
- 教科書を中心に、化学の全分野を学習し、確実かつ正確に、基礎的な知識を身につけること。その際、単なる教科書の丸暗記ではなく、その事項を原理から理解し、応用力を身につけるようにすること。
- 化学で扱う事項には、分野に関わらず相互に関係があるので、幅広く知識を習得したうえで、様々な視点で反応や性質を見るように心がけること。
- 物質名や化学式については、教科書に記載されている正確な表記法を身につけること。また、日頃から丁寧な記述を心がけること。
- 計算問題については、教科書にある基本的な問題の考え方を正しく理解すること。また、教科書に必ず記載されている有効数字に気をつけて正しく計算すること。

## 理 科 生物

〈出題内容・形式・配点〉				
内容	形式	配点	試験時間	
I 遺伝子、遺伝子工学、光合成細菌	マークと記述を併用	25	80分	
II 膜電位、神経、シナプス、筋	マークと記述を併用	25		
III 炭酸同化、窒素同化	マークと記述を併用	25		
IV 進化、形質、分子進化、種	マークと記述を併用	25		
合計		100		

【学習のポイント】

- 「生物」「生物基礎」で学ぶ範囲は広く、多層層にわたっているため、全体をむらなく学習する必要がある。生命現象は、物理や化学の原理に則っているため、なぜそのような現象が起きるのか、原理を理解することが応用の効く学習につながる。
- まずは教科書を中心とした学習に取り組んでもらいたい。応用的、発展的な問題については、生物学の背景にある原理を理解していれば、あるいは与えられた情報を論理的に分析することで、解答できるものとなっている。
- 生物では一つ一つの現象や反応が独立して起こるのではなく、それらが相互に関連して生命現象として体系化されている。断片的な知識を習得するだけでなく、それらがどのように体系化されているのかを考える習慣をつけてもらいたい。
- 必要な情報を図表から読み取り適切に解釈する力や、自分の考えを論理的に文章にまとめる力を養ってもらいたい。
- 文章の作成にあたっては、読み返し、意図を適切に伝えられているかどうかを確認する習慣を、身につけてもらいたい。

## 経営学部で学ぶ感性

〈出題内容・形式・配点〉				
内容	形式	配点	試験時間	
I 論述	記述	30	120分	
II 論述	記述	30		
III 論述	記述	40		
合計		100		

【出題の基本方針】

本入試における出題の基本方針は、経営学部で学ぶ上で期待される総合的な感性の力「発想力、構想力、文章表現力等」といった受験生の総合的な能力(感性の力)を確認することにある。具体的には、受験生が与えられた題材(文章や語句、図や写真など)の背景や意図を読み解き、受験生が学習して培った「知的好奇心」「観察力」「洞察力」「発想力」などの学力を交えた主体的な見解を論理的に整理し(構想力)、その内容を他者に具体的かつ明解に限られた字数で伝える「文章表現力」を評価することを目的としている。

【学習のポイント】

- 経営学部で学ぶ上で期待される総合的な感性の力「発想力、構想力、文章表現力等」は一朝一夕で身に付くものではない。日頃から、経営に関する事柄に関心を持って、自分で考えてみることを心がけてほしい。そのためには、新聞を読みニュースを題材に自分の考えを書いてみることをお勧めする。
- 社会科だけでなく、すべての科目にわたって幅広い教養を身につけておきたい。関心のあるテーマについては、新書を読むなどして、基礎的な知識を深めておくようにしたい。そのうえで自分の考えを展開できれば良い。なお、誤字脱字を防ぐために、パソコンやスマートフォンでの文字入力とは別に、実際に文字を書いて文章を作成する練習は不可欠であろう。